

実りの多かった お料理講習会 (11月12日)



大智寺で初めて企画をした

ドキドキのお料理講習会。

「お釈迦様が悟りを開かれる前に食された

乳がゆを作ってみよう！」

という軽い気持ちから企画した今回のお料理講習会。

・・・とはいえ、料理にまったく自信のない若おくり。
そこで雪印メグミルクグループからとってもきれいな栄養士の先生をお呼びし、
いろんな乳製品を使ったお料理を教えていただくこととなりました。

一番人気は「ミルク胡麻豆腐」もっと牛乳の味が残るのかと思いきや、



想像を上回る出来上がり！箸で挟むと「プルプルン」と揺れるもちり感。しかもものの10分くらいで完成してしまう優れもの。正直、驚きました。あまり普段使ったことのないカッテージチーズも、意外に「青菜に和える」な～んて和食にも合うことが、わかりました。デザートのアチーズケーキでみんなの顔もほころびました。

終わりには、北東部地域包括支援センターの方の認知症のお話を聞き、「好奇心を持ち、おしゃれて明るく過ごす事が大切」と教えていただきました。

大智寺だより

平成22年師走

発行所

大智寺

岐阜市山県北野

668-1

電話:058-229-1532

Mail:

hybsr245@ybb.ne.jp

ホームページ

<http://www.geocities.jp/daititoukai>

今月の当紙発行には、岐阜県浄化槽管理センター様の
ご支援をいただきました。
ありがとうございます。

広がる大智寺の輪 〜一期一会その瞬間〜

島中学校野球部の皆さんが

大智寺にて坐禅体験！

11月28日、少年自然の家にて合宿中の島中学校の野球部員40名が、早朝6時から7時までの1時間坐禅の体験をしました。

少年自然の家からお寺までは程好いマラソンコース。礼儀正しくきびきびとした野球部の子らに朝の禅寺がびったりお似合いです。昔からスポーツは精神統一が大切と言われますが、坐禅はまさに心を落ち着かせる時間といえます。野球部の皆さんが活躍されますよう、微力ながら応援しております。



鷲見家の方々が

お掃除にいらっしやいました。

「存じのように、大智寺は今から500年以上前、また戦国武将の織田信長が活躍する前に、創建されました。その頃「ここに菩提寺を建てよう」と尽力されたのが、当時この北野を治めていた殿様の鷲見美作守保重です。「すみみまさかのかみ やすしげ」と読みます。

その後、美濃の斎藤氏の勢力が拡大し、鷲見一族はちりじりになりましたが、今でも各地からお墓のお掃除にいらっしやいます。11月には約20名の方がおいでになりました。

長い歴史の中で脈々とつながっている「人とお寺」、この先も「つながり」を大切にしていきたいと、しみじみ思う一日でした。

三輪・藍川校下

恒例 冬の托鉢（たくはつ）

毎年春と冬の年2回、この地区では托鉢が行われます。この托鉢は大智寺の和尚様だけでなく、近隣の色々な宗派のお寺の和尚様達と一緒にいう特殊な托鉢で、実は100年以上も前から行われてきたことです。

托鉢中の和尚様に布施をするよ、「財法二施 功德無量・・・」

とおっしゃいます。これは「物と心の2つの施しは、共に等しく尊いものです。そして、ご自分で積んだ布施は限りない功德となり、ご自分に帰ってきますよ」という意味です。

布施とは「何かのお役に立つこと」です。和やかな笑顔や、優しい声掛け、気持ちの良い挨拶も立派な布施なのです。



大智寺18世 先住 古範和尚 23回忌 (12月9日)

先代住職である古範和尚は、昭和63年12月に遷化いたしました。

「本当に静かで無口な和尚さんだった」といわれる古範和尚。

晩年は白いお髭がトレードマークになっていました。

幼い頃「20歳まで生きられないでしょう」と医者に言われ、

大智寺の小僧に出されたのがお寺との縁。

その後、岐阜の瑞龍寺にて9年間修行を積み、大智寺18世とられました。

厳しくも温もりある雰囲気は、今も多くの方の心に生きているものと思います。

当時から大きく変わってきた大智寺、古範和尚が見られたら何とおっしゃるでしょう。

代々の和尚様に胸を張れるようなお寺でありたいと、寺族一同思っております。

新年修正会のお誘い

元日・2日・3日

朝10時より 本堂にて

禅寺の新年は、大般若経の転読で始まりま
す。大智寺では、皆様に大般若経を手につ
けていただき、転読していただいております。

この大般若経は、あの「西遊記」でおなじ
み中国唐の時代の玄奘法師(三蔵法師とも)
がインドから持ち帰り、広めたお経です。お
寺では一年の初めにこのお経を転読し、地域
の平穏や五穀豊稔、家内安全を祈願します

昔から「転読」を行うと、清らかな「般若
の風」が起ると言われています。一年に一
度の機会ですので、どうぞおいでください。

※ 料金や申込は、不要です。

どなたでもご自由にご参加ください。
お待ちしております。



～ シリーズ 北野のおばあちゃんの味 ～

♪北野で丁寧に野菜を育てるおばあちゃんの味 おすそわけ♪

北野里4号のおばあちゃん おやしき作り

- ① 里芋を2つか3つに輪切りして、柔らかくなるまで電子レンジにかける。
- ② 柔らかくなったらよ～くつぶして、塩加減をして 幾つか丸いボールを作る。
- ③ フライパンに油を引いて、ボールを手の平でぎゅっと平たくして焼く。
- ④ 里芋は火が通っているから、焼き目がついたら生姜だまりに付けて食べる。



「昔は家の中に土間があって、その土間に穴が掘ってあった。冬になって里芋やらさつまいもができると、その穴が貴重な貯蔵庫になった。里芋を穴に入れてその上に米ヌカをかけた。普段は穴の上から板が敷かれとって、かくれんぼの隠れ場所にして、よく遊んだもんや。なつかしいねえ」

岐阜市咲楽 12月号にて

大智寺風景が掲載されました。

岐阜市咲楽(さくら)は、毎月37万部発行している無料戸別配布のフリーペーパー。岐阜市だけでなく大垣市、各務原市、瑞穂市や羽島市にも配布されているそうです。

この咲楽が発行されてから、大智寺へ来てくださるお客様がぐんと増えました。いろんな地域の方々に大智寺を知っていただける機会をいただき、本当に感謝しております。

中日新聞にて

各務支考の獅子庵が掲載されました

地域の方にいつも掃除をしていただいている獅子庵。今回中日新聞にて各務支考を大きく記事で紹介していただきました。

獅子門の方によると獅子庵は来年度より工事に入るそうです。既に柱は傾き、建物はいつ倒壊してもおかしくない状態らしく今回改修することとなったそうです。もうそろそろ見納めですよ～。



今月のひよこ

モミジの季節があつという間に終わると、大智寺では種々のツバキがかわいらしい姿を見せてくれます。今年も残すところ後わずかになりました。

年末になると、お寺ではお餅をたくさん作ります。本堂の中の仏様だけでなく境内のお地藏様や観音様にもお供えします。・・・ところが境内のお餅のお供えは、ものの10分もありません。

寒い冬にお腹を空かせた(??)カラスが、どんどん持って帰ってしまう。日本昔話の「かさこじぞう」とは訳が違う。カラスがお餅を「おもちゃ」に遊んでいるのを見ると悲しくもなりますが、それでも毎年作っています。めげないぞ。

大晦日は寒いですがぜひ除夜の鐘を打ちにおいでください。

鐘を打ちたい方へ
打ち放題ですよ(笑)
長蛇の列がない
穴場です。
お待ちします。



永代供養墓って、どんなお墓？

「永代供養墓」とは、将来お墓を守りの方がいなくても、お寺が守って供養するお墓のこと。

「うちは娘だけで、みんなお嫁に行って跡継ぎがない」というご家庭も多くなり、だんだん増えてきたお墓です。

「だけど、私たち夫婦で同じお墓に入りたいわ」という方のために大智寺では、ご家族の追加納骨ができるタイプをご用意しております。

「じゃあ、夫婦だけでなく離婚して帰ってきた娘も入れるの？」もちろん納骨できます。(追加納骨をされても費用は変わりません)

完全個別永代供養墓

1区画：25万円～
(墓石代金含む)

特色

- ◎宗教・宗派 不問
- ◎大智寺での供養内容
月命日の供養
春秋彼岸の供養
- ◎追加納骨 可能
夫婦、家族でご利用可
(追加料金 なし)